

学位論文審査の結果の要旨

伊東拓朗（申請者氏名）

本研究は、台湾産マンネングサ属における適応放散を生態的・形態的・遺伝的・生理的アプローチから解析したものである。その結果、台湾高山においてマンネングサ属が短期間で分化していること、生育環境と葉形態・光合成様式の間に関係が認められることから適応放散を起していることを示した。また、台湾内の2つの系統で適応放散が起こっていることから、これまで植物では報告例のない平行適応放散であることを示した。更に、この平行適応放散は、2つの独立した台湾への移入と、それに続く台湾山脈形成時のアップリフトによって成立した可能性が高いことを示した。これらの知見は進化生物学・自然史学分野だけでなく、農学・生理学・生態学分野にも大きく寄与するものである。

以上のように、本論文は、多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して、本論文が博士（学術）の学位論文として十分価値あるものと判断し、合格と判定した。

最終試験の結果の要旨

伊東拓朗（申請者氏名）

最終試験は、平成30年1月23日に茨城大学農学部にて、学位論文の公開発表に引き続き、論文審査委員により行われた。最終試験では学位論文の専門領域に関する質疑応答がなされた。その結果、本審査委員会は伊東拓朗君が自立して研究を進めることができる学力と見識を有しており、博士（学術）の学位を授与するに足る資格があると認め、最終試験を合格とした。

◎博士（学術）を授与する理由

本研究は台湾産マンネングサ属における適応放散を生態的・形態的・遺伝的・生理的アプローチから解析したものである。これは、進化生物学・自然史学分野だけでなく、農学・生理学・生態学分野にも寄与するものであり、学問を超えた学術的に重要な研究成果であると言える。その意義を踏まえて、本学位論文審査委員会は、全員一致して、博士（学術）を授与することが適当と判断した。